

令和元年度 第1回 峡南地域保健医療推進委員会議事録

日時 令和元年6月18日(火) 16:00～17:30
場所 南巨摩合同庁舎 3階大会議室
出席者 委員 出席19名
代理出席3名(早川長望月副町長)
(身延町熊谷福祉保健課長)
(しもべ病院望月総看護師長)
各町福祉保健関係課長 6名
事務局 峡南保健福祉事務所 11名

【概要】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 峡南保健福祉事務所長あいさつ
- 5 議事

1) 病院群輪番制病院運営事業

平成30年度事業報告・決算報告・監査報告について

事務局から、資料1により説明
会計監事から会計監査報告
(質問、意見なし)
拍手により承認

2) 山梨県地域保健医療計画に基づく「峡南医療圏域アクションプラン」について

事務局から、資料2により説明

委員：

13ページに肝炎及びヘリコバクター・ピロリに対する助成事業について書いてあるが、実際にどのくらい助成されたのか、件数等を教えていただきたい。

事務局：

手元に資料がないため、確認して後日回答する。

委員：

実際C型肝炎等の助成は活用して治っている方も大勢おり、とても良い制度だと思っている。ただ、ヘリコバクター・ピロリの助成は約1000円で、1000円のために手続きをして、本当に使われているのかどうなのを知りたい。

事務局：

手元実績を準備しておらず、すぐ回答することはできない。きちんと確認をして回答する。

議長：

ちなみに肝炎だといくらになるのか？

肝炎はどのくらいの効果があるのか？

委員：

肝炎は、例えばハーボニーを使うと数百万円かかる。個人ではとても払えないかと思うが、助成のおかげで治っている方が大勢いる。峡南地域にとってもとても良い制度だと思っている。

3) 令和元年度峡南保健福祉事務所の重点事業・主要事業について

事務局から、資料3により説明

会長：

先日いらした聴覚障害者の方が、この救急訓練、災害時の要援護者対策で、音が聞こえないために、救いを求めるべき状況にあることを理解できない。ぜひ聴覚障害者に対する対策を考えてくれと言っていた。聴覚障害者について具体的に対策はあるのか？

事務局：

保健所としては、聴覚障害者に対する対策というのは、現在のところ取り組んではいない。

各町で何か取り組みがあれば教えていただきたい。

議長：

各町で対策をたてているところはあるか？

委員随席：

市川三郷町では手話施策、手話言語条例があり、現在聴覚障害者の皆様方と定期的に会議を持っている。その中で、聴覚障害者の皆様が災害時にどうしたらいいのかということも課題としている。現状では、防災無線があったときはFAXを必ずするという、救急時、体調不良時に問い合わせをどのようにしたらいいのかというような確認をしている。また、防災訓練時には聴覚障害の方にも参加してもらい、手話通訳者の派遣訓練等もしている。また、個別の対応の中では、手話通訳者の方とともに保健師が訪問し、具体的に何が心配であるのか、どのようにしたらいいのか、地域でどんな支援ができるのか、というところの話し合いをしている。

4) 峡南地域在宅医療広域連携会議（専門委員会）計画について

事務局から、資料4により説明
（質問、意見なし）

5) その他

令和2年度病院群輪番制病院運営事業に係る委託料の振込手数料について
事務局から、資料5により説明
（質問・意見なし）

6 その他

委員：

毎年このようにしてアクションプラン、重点事業等の話を聞いているが、我々現場の人間として、峡南地域で医療体制、医療機関がどうあるべきか、ということも非常に重要なことだと考えている。実際に、特に峡南中南部の身延、早川、南部に関しては人口減少がどうなっていくのか、産業がどうなるのか、それによって医療機関を受診する患者がどのように変化するのか、ということに興味を持たなければならないと思っている。

6年、7年前の地域医療再生計画に25億円が投じられ、県が計画を立ててという形で行ったが、それが今実際にどうなっているのかということをもう一度考え、その中で今後どうあるべきか、どうできるのかを考えていかなければならない。この場の各界の方々と、こういったことを考えていく、勉強会のようなものができればと思う。

このままいけば、医療の質自体が低下してしまうのではないかという危険さもあると思っている。効率よく、きちんとした形の中で医療を提供するためにも、勉強会も含め提案をする。

議長：

なにか、対策をたてるための諮問委員会のようなものの設置を考えてほしいと思う。病院の合併など、一カ所で見られるようにしたほうが効率的だとは思いますが、それらも含めてなにか考えていただきたい。

事務局：

国としても地域の医療体制、医療の形態、医師を含めた形態について考えているところで、先日聞いたところによると、病院別の機能をさらに精査して、主に公立病院を中心に似た機能の病院の統合を促していくという方向が国から示されている。

また医師の確保についても、山梨県では山梨大学の地域枠で、今35名だと思いが、入学している。その方たちに関しては、今年は100%山梨県内に残った。山

梨県内といっても、県立中央病院や医大など、大規模な病院に行って研修する、地域の病院になかなか来ないというような状況であるが、今度制度が変わり、県から行く病院を指定することができるようになるらしい。その制度は33年度くらいから始まるということだが、いままで若い先生が行かなかったような病院や診療所にも県から派遣されるという場合がでてくるため、多少改善していくと思われる。

委員：

いま人口減少で、峡南地区は非常に過疎化が進んでおり、このままいくと、当然先ほどのような話になると思う。ただここへ来て中部横断道ができた。医療機関も今度は近くなる。これからの峡南地区を見据えたなかで、どういう医療体制ができるのか、そういう諮問委員会のようなことをやってもいいと思う。現実問題として、我々も非常に困っているところである。できるならば先生方を交えながら会合を行いたい。

その他のことだが、いま温泉施設で、レジオネラ属菌の問題がある。レジオネラ属菌検出後、清掃・消毒して検査で問題ない。数値が以下ということになり、保健所にも改善報告書を出した。しかし今度の新しい指定管理者がレジオネラ属菌の検出状況が心配になり、再度違う検査機関で調べた結果、ぎりぎりだったがレジオネラ属菌の数値が出た。これから長くやっていく間に何か起こらないためにも、さらにもう一度検査を行ったが、今度は前よりも高い数値が出た。これは困るということで、緊急で追加予算を組んだ。

通常、次亜塩素酸で除菌をするが、いま静岡の方ではそれではなく、さらにもう一つ進んだモロクロラミンで処理を行っていると聞き、それで消毒したらレジオネラ属菌が検出されなくなったということで、今回そちらでの予算付けする。県にはその辺の対策についても行政指導をお願いしたい。

7 閉 会